

## 令和 8 年度予算編成方針

令和 8 年 2 月 2 日

秦 野 市

本市の令和 8 年度財政見通しは、賃金上昇に伴う個人所得の増加などにより、市税収入は増加を見込むものの、人口減少、少子・超高齢社会が本格化する中で、扶助費や後期高齢者医療事業特別会計への繰出金などの社会保障費が膨らむことに加え、物価高騰をはじめとした流動的な社会経済情勢への対応が求められるなど、引き続き厳しい財政状況となります。

そのため、県道 705 号の拡幅整備完了や新東名高速道路の全線開通など、本市の飛躍・発展のための好機を逸することなく、“住んでみよう・住み続けよう” 秦野みらいづくりプロジェクトの取組を一体的に進め、まちの魅力向上や活性化を図っていく必要があります。

まちづくりの大きな転換期を迎える中、都市像「水とみどりに育まれ 誰もが輝く 暮らしよい都市（まち）」の実現に向けて、「ふるさと秦野」の確かな未来への道筋をつけ、まちづくりを次のステージに展開していくため、次に掲げる基本的な考えのもとに、予算編成に取り組むこととします。

### (1) 社会経済情勢の変化を踏まえた事業の推進

今後、人口減少と少子高齢化がさらに進行することが見込まれる中、情報化社会の進展なども踏まえ、施策レベルで、目的・手段・効果を再確認し、地域や市民にとって最適な事業となるよう、抜本的な見直しを行うとともに、物価や賃金の上昇、激甚化・頻発化する自然災害へ適切に対応するなど、社会経済情勢の変化を踏まえた事業の推進を図ります。

### (2) 総合計画（はだの 2030 プラン）の着実な推進

令和 8 年度は、「総合計画はだの 2030 プラン後期基本計画」の初年度となります。

小田急線 4 駅周辺のにぎわい創造、女性と子どもが住みやすいまちづくりなど、計画に掲げるリーディングプロジェクトに重点的に取り組み、地域の活性化を図るとともに、施策大綱別（分野別）計画の基本目標を柱とした諸施策を着実に推進します。

### (3) 行財政改革の推進

本市の総合計画は、財政的な裏付けをもった計画であり、行財政改革の実施による効果額を前提としていることから、歳入確保に最大限努めるとともに、EBPMの考え方を前提とし、事業の目的や市民ニーズ等の状況を踏まえ、「選択と集中」を図るなど、「第2期はだの行政サービス改革基本方針」に基づく取組を強力に推し進め、財源の確保を図ります。